

3 個人探究の先駆者の言葉から学ぶ

自ら学び自ら探究する学びの理念は、何も新しい教育方法ではありません。教育課程は違っても、自分がやりたいことを探り究めてきた先人を、日本はこれまで数多く輩出してきました。そんな偉人の言葉を紹介したいと思います。

○日米通算 4367 安打 イチロー選手の言葉（イチロー杯参加の子どもたちに向けて）

「自分自身で自分を鍛えてほしい。厳しく教えるのが難しい時代にだれが教育するのか。最終的には自分が教育しなければならない時代に入ってきたと思う」

「僕は28（歳）の年にアメリカに渡って大リーグに挑戦した。外に出て初めて分かること、調べれば分かることでも、行ってみて初めて分かることはたくさんある。外に出て気付くこと、勉強することはたくさんある。価値観が変わるような出来事を体験してほしい」

☆自分で自分を学ぶ個人探究と、そこから明らかになったことを実際に体験してみると、生活や生き方につなげていくことの大切さが伝わってきます。

○2019年ノーベル化学賞受賞 吉野彰 先生の言葉（受賞後のインタビューで）

「好奇心を原動力に世間が必要とするものを引っ張りだしてきた。」

「研究に必要なのは、1つは執着心。壁にぶつかってもすぐに諦めないこと。そして逆に柔らかい心、能天気な面。それらのバランスをうまく取る。とがった部分と柔らかい部分が必要。」

☆新しい価値を創造することの道のりは平たんではありません。学びを止めずに探究し続ける原動力は自分の好奇心。そこから始めることで、今まで誰も知らなかったことの発見につながるようです。

おわりに ～子どもはもともと有能な学習者～

☆日々深刻さを増す新型コロナウイルスの状況に、不安は消えませんが、思い返せばここ10年も日本は予測困難なことの連続でした。そんなとき、これからの未来の担い手の中心には必ず若者がいました。

そう考えると、今この難局は、ピンチではなくチャンスに思えてくるのです。

大人には到底かなわない、子どもが本来もち合わせている豊かな発想と、心の動きの振れ幅に期待して、自ら学んでいける力を信じて伸ばしていきたいものです。